

第2回ワークショップの結果概要（案）

【課題解決の方策】

■ 転用・売却

- 使用頻度の低い施設や統廃合後の跡地は民間に売却し、需要の高い高齢者福祉施設や地域活性化につながる施設にしてほしい。雇用の創出も期待できる。
- 小学校跡地は新たな施設を建てるのではなく、一部を改修する等して、校舎や体育館などの既存の施設を有効活用することを考えてはどうか。
- 学童施設や児童館、避難所は身近にないと不便なので、現状の施設を使うなどにより、統廃合後も今の場所に同様の機能を残してほしい。

■ 多機能化

- 機能が複合化されると多世代が集まり交流する機会ができ、地域の活性化につながる。
- 小中学校や児童館などの児童、生徒向けの施設に高齢者用の施設を複合させることで、高齢者に管理運営に関わってもらい生きがいの創出につながる、利用時間帯に幅ができて利用率が上がるなどの効果が期待できる。
- 現在行われている祭りをより盛り上げ、湯東を PR するために、宿泊やイベント、物販スペースが複合した施設があると良い。
- 新設される小学校は、魅力的な複合施設にするには面積が不十分ではないかと懸念している。小中一貫校化で教員室を統合することなどにより、他の機能を複合できるだけのスペースの確保をしてほしい。
- 施設を複合することで、管轄の違いによる設計上の制約が出て使いにくくなったり、学校などでは防犯面の問題が生じたりするのではないかと懸念している。

■ 機能分担

- 小学校跡地は施設ごとに各世代のニーズに対応した機能に特化し、機能分担することで幅広い住民の要望に応えることができると良い。
- 機能を複合して1カ所にまとめようとする、各機能に割ける空間が限られてしまい、中途半端な施設になってしまうことが心配だ。運動施設や利用者の多い施設は無理に集約せず、充実した広さと設備が確保できるように配慮すべきだ。

■ 重点整備

- 遠方からの集客が期待でき、地域の活性化につながるイベントに関連する湯東体育館や改善センターなどの施設は、今後更にイベントが発展できるように、施設同士の関連性を深め、機能を維持、改善してほしい。

■規制緩和

- 地域の魅力を高め人口を増やすためには民間活力を使った施設や住宅の開発が必要だが、市街化調整区域の縛りがあるので、規制を緩和する必要がある。

■管理・運営

- 人口が減少し財政難であることを考えると、既存施設の利用率をチェックし、料金体系を見直す必要性が出てきている。
- 全ての利用者から一律に料金を取るのではなく、地元の小中学校の部活動や高齢者の趣味の集まりなどは無料や低額にして利用しやすくし、その分を企業や一般利用者が負担する仕組みが考えられないか。
- 施設の管理運営だけでなく、計画策定の際にも民間を活用することが地域の活性化につながる公共施設づくりには必要だ。
- 良い施設なのに利用率が低いものもあるので、利用率を向上させる工夫が必要だ。
- 他の地区からの利用者呼び込むためには知名度を上げ、施設の魅力を伝えなければならないが現状では不十分だ。広報を含めた管理運営体制を整えることが大切だ。
- 地区外から多くの人が利用していても、今は地域にお金が落ちていないのでメリットがない。地域活性化につながる仕組みが必要だ。
- 管轄が異なる施設が複合された場合には、利用ルールが異なって利用者にとってわかりにくくなったり、管理運営が非効率的になったりしないように配慮すべきだ。

■施設へのアクセス

- 冬の雪深い時期でも、高齢者などが不自由なく活動できるようにしたい。居住地によってアクセスの利便性が異なる施設配置を検討し、施設へのアクセスが外出の障害にならないようにしてほしい。
- 公共交通機関が発達していない地域では、施設へのアクセスの良さを確保するには駐車場を充実させる必要がある。

【検討の前提・考え方】**■地域の将来像**

- 公共施設の配置や見直しだけを考えるのではなく、地域の将来像を考えた上で戦略的な計画づくりを行うべきだ。将来像を考える中で、湯東地区の基盤産業である農業のあり方は欠かせない。

■将来人口

- 人口が減少することを前提にすれば、極論を言うと公共施設のほとんどは不要だということになってしまいアイデアを出すのが難しいが、増やしていこうとすることが前提ならば話が変わってくる。どちらを前提に考えれば良いのか。
- 立地条件は悪くないのだから、住宅を増やすことができれば住む人は増えるのではないか。人口増を目指すことを前提に話ができるるとポジティブな意見が出るだろう。
- 地域の魅力に欠け、農家の後継ぎ問題もあることを考えると、人口増を考えるのは難しいと思う。人口減の幅を少しでも減らせるような活性化を目指すのが現実的ではないか。

■ニーズ予測

- 地域のニーズを整理した上で何がどのくらい必要かを考え、同様の機能を持った施設が複数ある現状を見直し、施設を有効活用できるようにしたい。
- 利用率は重要な指標の1つだが、使用頻度が低くても祭りの際などに重要な役目を果たしている施設もあるので、各施設のそういった役割も整理し、評価基準に含めて必要の有無を検討してほしい。

【課題解決の狙い】**■地域に必要な機能**

- 地域の高齢化が進んでいるので、高齢者の生きがいにつながるように、高齢者同士が気軽に集って話ができ、多世代で交流もできる施設があると良い。

■地域の活性化

- 公共施設を減らすことでますます人口も減るという悪循環に陥ることが懸念される。利用率を上げるには、地域外からも人が集まるような施設づくりを考える必要がある。
- 地域内での雇用を生み出し、Uターンなどで若者が集まってくるような魅力があり、地域の良さを発信できる施設を考えたい。

【検討プロセス】**■計画の進め方**

- 段階的に整備を進め、ステップごとに住民も含めて計画の評価、見直しを行うの

が良い。

- 設計段階で十分に検討しても、実際に運用を始めると問題点が出てくることもありえるので、実施の段階では柔軟に計画を運用してほしい。

■対象とする公共施設

- 公共施設のあり方を考える際には、市が管理している土地や小さな建物、テニスコートなどの設備も対象にする必要があるのではないか。

■ワークショップの位置づけ

- ワークショップの場では、自由闊達に意見を言い合えるように、上手く会議運営してほしい。